

第6回市民交流会のあらまし

実行委員長挨拶

雨の中をお越しくださりありがとうございます。雨を吹き飛ばすような熱い思いを感じてください。

亀山市長 挨拶

梅の花も膨らみ始めたこの頃です。関中学校で第6回市民交流会が開催され、うれしく思っています。「ええとこ残そう未来の亀山」は関町で開催するにあたりぴったりのテーマであると思います。関町のいいところである古い町並みを残していく保存も大事です。まちのよいところを残すため、地域を越え、世代を超え、町並みを保存していくのは大事です。旧亀山と旧関との合併での調整では規模の差に大きなものがありました。今後の両市町のまちづくりには、皆さんの力をぜひお借りしたい。これからも市民という立場が亀山を支えるのだという気持ちを持っていただき、皆さんのお力を頂きたいと思えます。

関中学校の人権クラブ「ヒューマンライツ」 谷本さん発表

「ヒューマンライツ」は3年前から活動しています。関中学校では人権フォーラムがありいろいろ話し合ってきました。差別のこと いじめのことを勉強してきました。ビデオを見ながらいじめについて考えてもらいたいです。圧力をかけられたらどうするか、いじめがあったら傍観者でいるか、やめさせることができるか話し合ってきました。

残そう伝統文化

有形財産、無形財産があります。有形財産としてはその土地などで作り方が違う。野登山に花いっぱいの回廊、もみじと桜との回廊ができるよう植えていきたい。
関のところに山城がありますがそれを発掘していきたい。町並み保存などを継続したい。
無形財産では雨乞いなどで後継者がいない。若い人がいないなど 池山地区では小学校で教えに行き引継ぎができないだろうかなど 昔はその地区踊りを教えて年寄りからこどもまで地域全体で教えていた。春祭り夏祭りなど全体で行っている。踊りをどうして国際交流ができないだろうか。外国の方から踊りを教えてもらって私たちが踊りを教える。ヤマトタケルノミコトの歴史の歌「雪月花」とか錫杖が岳で尺八の発表をやるなど伝統芸能を残していきたい。

子どもと共に何ができるか

地域に戻ったものが地域と学校に関わってきた。親がつながることで子どもとつながってくる。子どもの集える場所など考えていかなければいけない。子どもの活動の理解と認識、今の中学生が何を考えているか。小学年は挨拶もできなかったが中学校で地域のおばさんがわかるようになって抵抗がなくなり挨拶もできるようになった。地域といっしょになったイベントを考えていく。週5日制になってこどもたちがいろいろな活動ができるように。子どもだけを育てるだけでなく親も育てる。さりげない後押しを思春期とか自分が持っているパワーを認めてあげて一緒にしていくように。子どもの居場所だけでなく大人が手をつなげていく横のつながりを大事にしていく

いきいき地域づくり

現在の地域に対する取り組み方、問題点、未来の亀山に何が必要だろうか。
坂本には棚田の保存会がありすばらしい。歴史ある亀山を残そうということで屋号掲げる活動もある。近所の人と挨拶をしようということでこちらから挨拶をして打ち解けていったらどうだろう。「あいあい」の2階で高齢者と関わっている。「あいあい」までどうして来ていただけるかが一番のネックです。東海大地震を行政といっしょに調べてほしい。地域の隠れた人材をいかに参加させるか。たとえば体験農場するとか・・・子どもたちを呼んでみたらどうだろうか。いろいろなイベントがあるが交通手段がない。

外国人と共に暮らす

外国人と一口に言っても働きにきている人 日本に学びに来ている人いろいろ。まず挨拶をしていこう。毎日つづけると必ずかえってくる。挨拶運動はなかなか定着しないけどハローやハウアーユーに相当する新語「にーほん」を地域から発信したら面白そう。企業が最大の問題。派遣を大手が採用。外国人は道具扱い。行動のきっかけを作ろう。異民族である以前に人間として付きあいたい。

ふるさとの味、我が家の味

家庭でおふくろの味・・・お正月に煮干の味 味噌汁・・・味噌からおかあさんが作ってくれた。
地域の味がその地域の文化となっている。味は文化。
話し合いで出てきたいろんな味を頭に入れ、自分の埋もれた思い出の味をつくってみて、子どもたちに伝えていければ。潤いのある次世代をそだてることになるのでは。